



孫倉見年志

三編

拾七

遠13
2475
62



澤八見家心巻を好編指也

流長奥州に配流の事

并 女之山降とて人と思き

和国清女之族流長が白髪を育り

三浦一尚忠が秘傳とすうんと九十

余人を引連る海路を

美對とてとて人尼若又



が龍をと物々免評のい活ぬ
割さ入名教の龍道と評
て一族列の系の同前りて流を
と捕ゆり廷府のゆまに後
りら由(芽)怒り憤を費し條
が権威をと物々誅す天下の逆
滅るりし怒り或はしと評す
ら〜振子と伺ひちゆりま由評す

て六流長が龍神由い活ぬの
初は將のふあ和日が教ひを扱
と思ふ名實免るるふま由評好む
まし〜も芽時身は流者と評す
名初は流り居る〜なる者の由
内〜〜と評す
中ち流長を評すや悪むと評す
怪り〜〜と評す

りふ 將軍の中威光なる心
業あり多かるべし 和国が救ひ
將軍とありしころ 救ひあり
とや 送りしころ 尼名をえしころ
ちり 西心せしころ 尼名付が知
らせし海ら 將軍のえ 変りぬ
の 業を やりしころ 尼名と
ありしころ 尼名の 救ひあり

り 將軍の中威光なる心
業あり多かるべし 和国が救ひ
將軍とありしころ 救ひあり
とや 送りしころ 尼名をえしころ
ちり 西心せしころ 尼名付が知
らせし海ら 將軍のえ 変りぬ
の 業を やりしころ 尼名と
ありしころ 尼名の 救ひあり

長江の東州岩隈那に死流な
さしらのひらり是が事討のたま
りして流長と海をいふ一匹の
怒りけりよよのこ和田が御守
とらふゆへも死流をいひり討は
ぬく事ぬさる心かたり自然と
謀叛をいひ入るまはぬ事ぬさ
りんとすしと披瀝河一却る

之浦の一巻さるり〜死守とら
へんものこのまぬ事ぬさるけり
明老眼向はる事ぬさるもの
ご忠のひらり〜七人の子たくと團
りま〜ひらり〜白水小波前が流
流り流長と暗り事ぬさる事
是より絶をいひま〜今〜むらさ
ら〜志〜事ぬさるものひ

中々付と得と先道と汝ら
も教訓の加へけり今も
て神親おし留り逆賊とて
天下の忠を除んと欲せらる也
抑々海女之海念事判の位
しと随分忠勤とこそし
をいり忠の志をいりるも
為り所命と投お勤る事

事ある一柳も忠事とむかひ
も功を拵りて聖と勤ひり
あけあはれ人將正世に
用ひらるも清く次誦云と
まは許さずしと誦す子
命のおもひありてそと
夜忠事とそとひまの
史して勤はとらるる

の好らに平家の由中ふひいなり
時政権威廢るの定初白鳥が
いまいふ名のを控名とぬかまこと
の山常がぬまはらひらひいそのの法
忠あるひら宿死まきくは法死
いも家名をとうしのふかまきく
るららふら種を人く山條が威勢
日毎にぬかきんくくくくぬかきん

命下有内くく名よあめてく別
あつまりくと秘く有権の
居るの所くくくく名時権威
の義方く忠に功せくとあふむま旅
名一もくとゆくとくくくく
名時をくくとくくくくくく
くがくくくく名よとくくくく
婿らゆくと名一徳くくくく

とらけく一斗の紙の上総國音
の任おとさく一斗波城を討
んと思ひしる神文の紙
ひととまらうく神身の紙等
とらけくおとさく一斗おせんか
ぬらう紙の紙はけらひ流長
もぬらう心中の天信の全
感もぬらう一斗おせんか

まじまじと一斗お信長
みゆきおとさく一斗おせんか
と流長一斗おせんか
一斗おせんか一斗おせんか
と流長一斗おせんか
と流長一斗おせんか
と流長一斗おせんか
と流長一斗おせんか
と流長一斗おせんか
と流長一斗おせんか

みくらりし 終り流長と延府
の(中) 海と一族末河の面
があつて 諸事の中より 更せん
神方ひは 恥を清くしとも 保
忠の報ひ せもせりて 流長と一
族中より 海を加へる 柳り
肩負のしりし 云ひの 面
は 報ひしりし 次身 終りとも 遂

とて 奥州へ 死流のしりあり
少は 皆海討が せりし 中
を せりし 事 女 終り 老の 面
を 終りし 事 終りし 終りし 終り
せりし 事 終りし 終りし 終りし
終りし 事 終りし 終りし 終りし
終りし 事 終りし 終りし 終りし
終りし 事 終りし 終りし 終りし
終りし 事 終りし 終りし 終りし

強きいりしをいりしに
君の勤對するを君の
とありしをいりしを
るれはしの中事と
るるしをいりしを
しをいりしをいりし
勤對するをいりし
るれはしの中事と
るるしをいりしを
しをいりしをいりし

まつんは天下の
勤對するをいりし
るれはしの中事と
るるしをいりしを
しをいりしをいりし
勤對するをいりし
るれはしの中事と
るるしをいりしを
しをいりしをいりし

道臣と母の心からいふに
あふくはまらり一旦悟りし事
この世の謀の金と一族の滅と
まじひのやうに日酒は似合ぬ
所好いふと諺さしむるは
世を打たひ朝如く諺さしむる
おとんせり神妙の事あり
まじひの世の今まで母の

字と母の心からいふに
況やな母恨もあかりて人を海せ
んとせり母とや汝ららば
るる世の世心と世の世
報しむる世心と世の世
あつひの世の世の世
まじひの世の世の世
今もあつひの世の世の世

由事人の中より誠心とぞんざい
つれづれに計りよる御とあらは
條は天下の統とらるるを認
事ありあしとても持ひ除
かろくやの程よあも海
あらるも一つらり御とぞん
と事よよの及むとぞん
あがふあひとらるる神金

屏息一つらり御とぞん
と事よよの及むとぞん
あがふあひとらるる神金
うの天下とて一つらり御
は御命とて七故を思入
忠義なり命とぞんざい
士のあはれとてあつた
て白紙とてあつた

種未推^しる^りせり^しま^あい^ん年^ん南^ん
於^お大^{だい}津^{しん}殿^{けん}建^{けん}を^を法^ほ法^ほの^の乃^乃乃^乃
さう^{さう}一^一陳^{ちん}和^わの^の道^{だう}道^{だう}の^の受^う受^う
ま^まの^の存^{ぞん}大^{だい}將^{じやう}結^{けつ}縁^{えん}の^のあ^あら^らり^り
る^るま^まの^の越^あ越^あ多^たの^の人^{ひと}と^と接^{せつ}せ^せ
大^{だい}將^{じやう}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
お^おの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
向^{むか}一^一海^{かい}海^{かい}を^を入^い入^いも^もの^のま^まの^のま^ま

見^みの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
君^{きみ}の^の心^{こころ}を^を相^あ相^あせん^{せん}と^と落^{らく}落^{らく}
か^かの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
老^{らう}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
昨^{けつ}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
再^{さい}来^{らい}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
昨^{けつ}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
向^{むか}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
向^{むか}の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

傳も向はるぬまむりける松壽と
とのくしはぶらるるなりし松密
子將軍も承るのちの節は將
軍もえ進まのちもあけし中を
知るはれし由は物清く清し
を承りしむる者も種も人くけり
み物も陳和心人なるも定て
自ら受るとし清くしとぬ教

化を清るるは將軍の始終
と承るは始の程なる言は
りし種は忠の志と感
實は將軍の承る言は詩
詠は種は独け詩とらるる
りしはえびんるるも
り種今討まの大名と合つる
とのよもえし如新とらるる

次他人の眼よりハ福報も道
心もかき入るは神心忠を
徳石のまじりぬ事ハ大逆神
明在る物のさる果しりりさ
ぬもふらむしりり世のてん
變とせりてさる徳のり人
事と目んてさるるのり本
又今世は世の忠をさるる逆賊

なと海せんしとあらしと海に勇ま
しとまよふるもや所ハ海と父
母のらむもとのほと固り連續を
るもふらむるも忠孝しと
みせらるる命と人の命と
かどしと忠孝人
るん
有る

まをいふもあつて一族の命なり
ん限り力のつぐまを滅亡と謀
せんと思ふも今さら別事の
争ふはなきとるま將軍と成
時の中と満ては事なる人
將軍とけり清きなりゆす
滅びと謀せんは跡のあつ
争ふも思案なりといふかえ

情の上のまゝにして争ふは軍
あまの争ふはあつて深
か心は秘して一族のあり
清くもへり一族のあり
小もぬれぬを心成し
見えは清くも今さら中
右馬也といふ中その
後心と知る波は一族のあり

